402162-02Ⓚ R（05）

KVK 流し台用ハンドシャワー付シングルレバー式混合栓（シャワー引出式）
KM594(Z)(G)〈各仕様共通〉 施工説明書

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

●ここに示した ⚠警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
●ここに示した ⚠注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です　❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

⚠警告

湯水を逆に配管しないでください。給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。
禁止（水・湯）
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。

給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。
禁止（85℃以上はダメ）
85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。
禁止
器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

給湯に蒸気を使用しないでください。
禁止（蒸気）
器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

（寒冷地仕様の場合）
水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。
禁止
水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓（給水・給湯管含む）には絶対に通電しないでください。
禁止
通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

⚠注意

器具に強い力や衝撃を与えないでください。
禁止
器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。
点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

⚠注意

めっき部品は、ぶつけたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。
禁止
めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

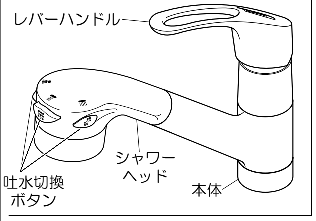
凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。
水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

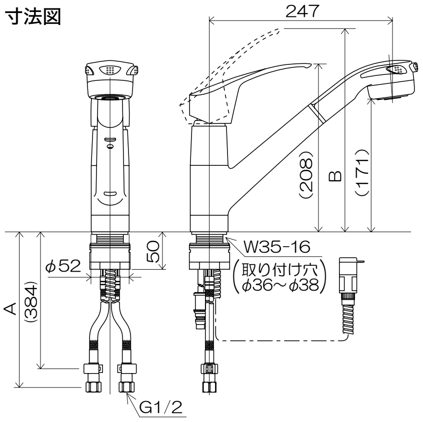
① 使用水圧〔A=（給湯機の最低作動水圧）+（配管圧力損失）〕
（1）瞬間給湯機との組み合わせ（設定条件　水温：25℃　給湯機温度調節：高温　吐水温度：42℃　ハンドル全開）
〔比例制御式〕最低必要水圧：A+0.10MPa（動水圧）、最高水圧：0.75MPa（静水圧）
（2）貯湯式給湯機との組み合わせ
〔給湯・給水圧力〕最低必要水圧：A+80.0KPa（動水圧）、最高水圧：0.75MPa（静水圧）
② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
⑥ 給湯機の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
⑦ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
⑨ 本製品は改造（加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等）によるトラブルについては、保証の限りではありません。
⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 ／ 寸法図

取り付け完成図と各部の名称

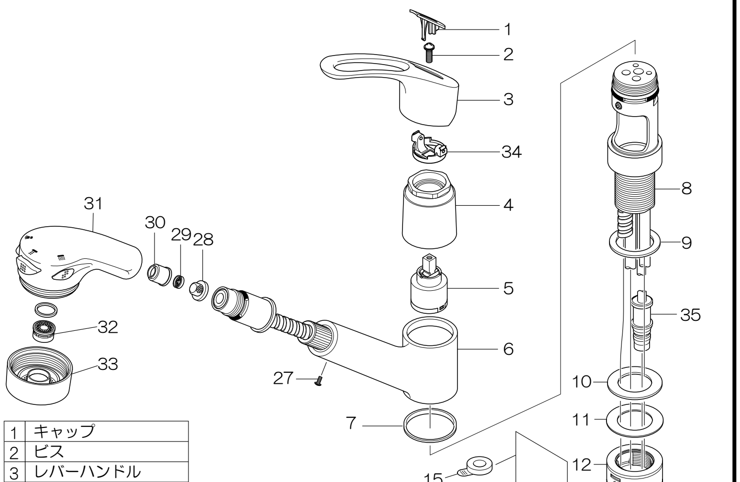


寸法図



A寸法	逆止弁付仕様	(415)
	逆止弁無し仕様	(402)
B寸法	メッキハンドル仕様	(253)
	白ハンドル仕様	(255)

分解図

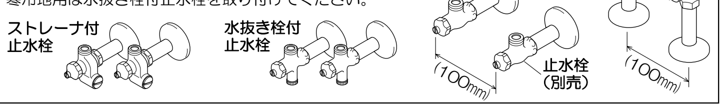


1	キャップ		
2	ビス		
3	レバーハンドル		
4	固定ナット		
5	カートリッジ		
6	吐水口		
7	スリップ板		
8	本体		
9	シートパッキン(白)		
10	輪パッキン(黒)		
11	スリップ板		
12	省施工ナット		
13	ホースガイドA		
14	ホースガイドB		
15	キャップ		
16	カプラー		
17	シャワーホース		
18	パッキン		
19	水抜きユニット		
20	ブレードホース		
21	ジョイント		
22	逆止弁		
23	パッキン		
24	保護キャップ	30	ソケット
25	クイックファスナー	31	シャワーヘッド
26	ジョイント	32	ストレーナ
27	ビス	33	シャワーフェイス
28	ストレーナ	34	エコノッチユニット
29	定流量弁	35	プラグ

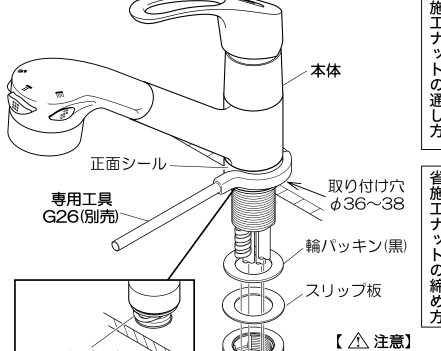
取り付け手順1

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

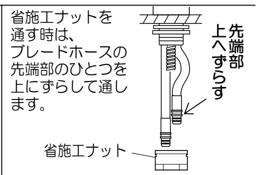
2 止水栓（別売）の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。
水受けタンク又はトレーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーの寸法をご確認の上取り付けください。
止水栓はストレーナ付が最適です。
寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。



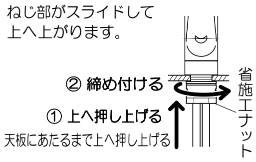
3 本体の固定
取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面にくるように本体を完全に固定します。
その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがして固定してください。
【⚠注意】
・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
・専用工具G26（別売）を使用して本体を保持してください。シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けますと破損のおそれがありますので、これらは持たないでください。



省施工ナットの通し方
省施工ナットを通す時は、ブレードホースの先端部のひとつを上にずらして通します。



省施工ナットの締め方
ねじ部がスライドして上へ上がります。



【⚠注意】
省施工ナットはねじ部に差し込むだけでは完全に取り付けできません。締め付けは、専用工具G11（別売）で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

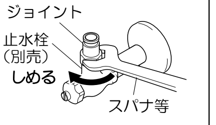
専用工具 G11（別売）

取り付け手順２

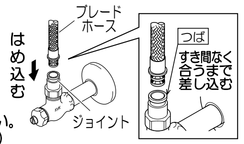
4 止水栓との接続　（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

① ジョイントを止水栓に接続します。

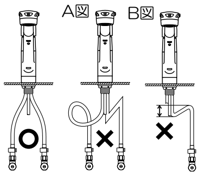
【 ⚠ 注意】
- 接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。
（締め付けトルクの目安=約2000N・cm）
- 薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。



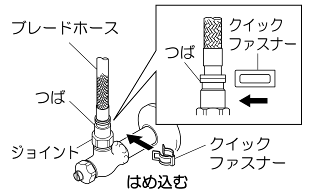
② ブレードホースをジョイントにはめ込みます。
ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。



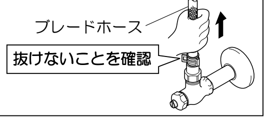
【 ⚠ 注意】
- ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。（A図）
急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 上下戻り配管はやめてください。（B図）
ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。接触部から亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ブレードホースは切断しないでください。



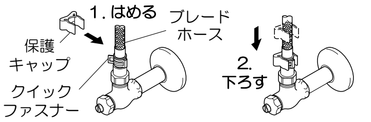
③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



【 ⚠ 注意】
ブレードホースを上に引っぱって、抜けないことを確認してください。しっかりはまっていないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。



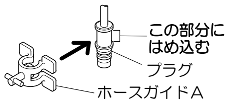
④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。
この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまで下ろします。



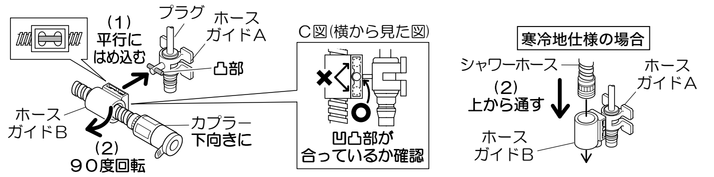
5-1 シャワーホースの接続

① 同梱のホースガイドＡをプラグにはめ込みます。

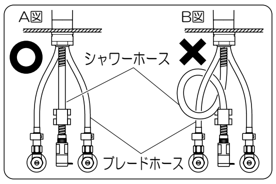
【お願い】ホースガイドは壁面に固定しないでください。



② (1) ホースガイドＢを、ホースガイドＡの凸部と平行になるように、ホースガイドＡにはめます。
（ホースガイドＢは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様の場合は同梱しています。）
(2)〔一般地仕様の場合〕カプラーが下向きになるように、ホースガイドＢを９０度回転させます。
〔寒冷地仕様の場合〕ホースガイドＢを９０度回転させ、シャワーホースをホースガイドＢに上から通します。



【 ⚠ 注意】
- 固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。
B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。
シャワーホースが破損し漏水により財産損害発生のおそれがあります。
-〔一般地仕様のみ〕カプラーとホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。（増し締めトルクの目安=約100N・cm）

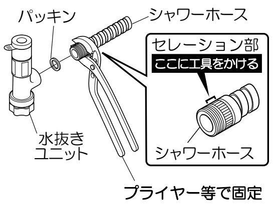


【お願い】ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。
ずれている場合は合わせてください。（C図）

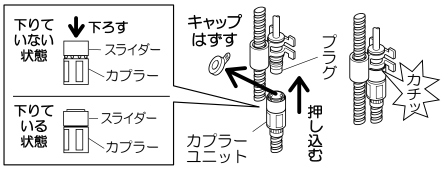
寒冷地仕様の場合

ホースガイド取り付け後、同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。

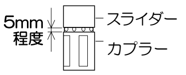
【 ⚠ 注意】
- 締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安=約200N・cm）
- シャワーホースをねじらないでください。
シャワーホースが破損するおそれがあります。
- シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
- 本体のプラグにカプラーを押し込む前に、カプラーと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。
（増し締めトルクの目安=約100N・cm）



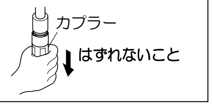
5-2 ③ カプラー（寒冷地仕様は水抜きユニット）のキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込みます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。）
取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。

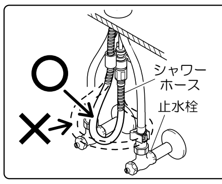


【 ⚠ 注意】
カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。
確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- スライダーが5mm程度上がっていること



- カプラーを真下に引っ張ってはずれないこと





【 ⚠ 注意】
シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。
シャワーホースが引き出しにくくなります。

流し台に水受け用タンクがある場合　シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。
ホースとの接続の銅管部を曲げることにより左右に振ることができます。

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【 ⚠ 注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

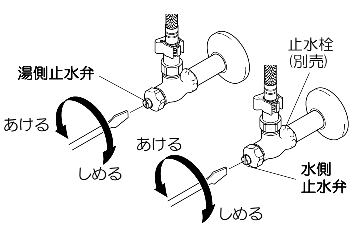
シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器にゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

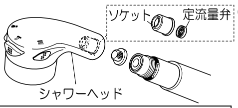


故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現　象	お調べいただくところ	処　置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器にゴミ等がつまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器を清掃する	取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器の清掃方法」
	ガス給湯機と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯機の能力を適正能力にセットする	—
	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器は凍っていませんか	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器にぬるま湯をかける	—
	給水圧力が低い場合、定流量弁を取りはずすと改善されることがあります		※下記参照
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ「湯温・流量調節」
	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器にゴミ等がつまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器を清掃する	取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器の清掃方法」
吐水が飛び散る	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器にゴミ等がつまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器を清掃する	取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器の清掃方法」

※給水圧力が低い場合、定流量弁を取りはずすと改善されることがあります



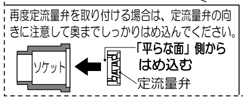
① シャワーヘッドからソケットを取り出します。
取り出せない場合はシャワーヘッドを布等の上で軽くたたきます。

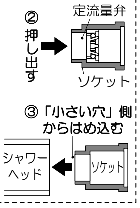
【お願い】シャワーヘッドを強くぶつけないでください。破損するおそれがあります。

② ソケットの中に組み込まれている定流量弁を押し出します。

③ ソケットをシャワーヘッドに戻します。ソケットの向きに注意してください。ドライバー等先の細いもので奥まで押し込んでください。

再度定流量弁を取り付ける場合は、定流量弁の向きに注意して奥までしっかりはめ込んでください。





［カートリッジのメンテナンスをする場合］
【 ⚠ 注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
カートリッジのメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。